－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教授法IA／英語科教育法IA						
担当教員	作井　恵子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q2306A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	国際的な視野をもち、学習指導要領に記されている我が国の英語教育の方針を理解し、基本的な教授法・ICTなどの知識・技能を身につける。
授業の概要	中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身につけることを全体目標とする。 　この全体目標を鑑み、本講義では英語科教員養成の導入的位置づけから、まず、学習指導要領を理解することにより英語科の目標や内容を理解する。またその中にあるコミュニケーション能力、グローバル化に対応する英語や、主な英語教授法など、英語教員に必要な基本的理論・概念を学習する。それと同時に教授法、ITC機器の使い方、学習指導案はどういうものかを読んでみる、など実践的な内容を取り入れることにより、教科法における内容が徐々にスパイラル方式に身に付くようにすすめていく。
到達目標	1.中学校および高等学校での英語教育を概観し、小学校との連携について理解することができるため、学習指導要領などを理解しながら、国際的な視点からの英語教育に関する知識を身につけることができる。 2.基本的な教授法を理解しそれを指導・実践につなげることができる。 3.学習指導案の様式を理解し、書くことができる。 4.英語教育におけるICT活用が実践できるようにする。
授業計画	第１回：英語学習とは：振り返りを通して 第２回：学習指導要領とは（中学校・高等学校） 第３回：学習指導要領の歴史とその理解 第４回：学習指導要領（英語版） 第５回：コミュニケーション能力とは何か 第６回：国際語としての英語 第７回：グローバル化と英語教育 第８回：英語教授法と学習目標設定 第９回：訳読法から直接法へ 第１０回：CLTからTBLTへ 第１１回：小学校英語 第１２回：指導案書き方 第１３回：英語教育におけるICTの活用 第１４回：模擬授業 第１５回：授業総括と定期試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業内容に該当する教科書や資料を読むこと（２時間） 授業後：プリント、資料や教科書を読み返し理解を深めるとともに疑問点を整理する。課題を与えられた場合はその準備をする（２時間）
授業方法	講義・演習 一方的な講義形式ではなく、問題提起に対するディスカッション・質疑応答など取り入れる。また模擬授業に対しては教員および他の学生からのアドバイスを取り入れ、振り返りを行いながら授業を行う。 デジタル教科書、動画などを取り入れＩＣＴを使った授業を行う、課題はmanabaを使い提出する。
評価基準と評価方法	授業中のディスカッションへの参加（２０％）、プレゼンテーション（３０％）、定期試験（５０％）
履修上の注意	英語の学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。 科目の性質上、生徒を指導する立場を目指すので、遅刻・欠席をしないこと。やむをえず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
教科書	「文部科学省．中学校学習指導要領解説・外国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領解説・外国語編」（平成30年）
参考書	「文部科学省．中学校学習指導要領・外国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領・外国語編」（平成30年）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教授法IB／英語科教育法IB						
担当教員	作井　恵子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q2306B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	第２言語習得理論を理解し、それをコミュニケーション能力を育成するためにどう応用するかをまず考える。その後教育現場のいろいろなニーズに対応するべく第２言語習得理論からTT,　動機づけ、評価などを考察する。
授業の概要	中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身につけることを全体目標とする。 　この全体目標を鑑み、本講義では英語科教員に必要な第２言語習得理論について学び、その観点からの教材研究を行い、また文法・語彙・発音・文字指導について学習する。また、アクティブ・ラーニング、ティームティーチング、教室英語など指導上必要な英語力は何かを考えながら、教室でそれを行い実践力を養う。また再度、第２言語習得理論に立ち返ること、それに加え学期始まりの授業参観の経験を振り返りながら、たえず学んだ知識を理論と実践面に振り返る指導力を身につけることを目標とする。また観点別評価・パフォーマンス評価についての基礎知識を養う。既習したことを新規学習項目と併せてスパイラル形式に知識および実践力を身につける。
到達目標	1.検定教科書などの教科書、教材を多角的に研究することによりそれらの趣旨・構成・特徴について理解できる 2.４技能５領域の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 3.第２言語習得理論についても理解し、まずその視点から指導できる。 4.ティームティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。 5.主体的な学びを促すアクティブラーニング、生徒の動機づけ、教育現場の多様なニーズに対応できるようにする。 6.さまざまな評価について理解し、指導に生かすことができる。
授業計画	第１回：授業観察のありかた、観点 第２回：授業展開のありかた（中学校授業観察） 第３回：授業展開のありかた（高等学校授業観察） 第４回：第２言語習得理論　概論 第５回：小学校の教材研究 第６回：中学校の教材研究 第７回：文法指導について 第８回：語彙指導について 第９回：音声・文字指導について 第１０回：　第２言語習得論再考（エラーから考える） 第１１回：アクティブ・ラーニングについて 第１２回：教室英語とティーム・ティーチングについて 第１３回：「英語教員に求められる資質」ゲストスピーカー 第１４回：英語教育における評価　（観点別評価・パフォーマンス評価） 第１５回：授業総括と定期試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業内容に該当する教科書や資料を読むこと（２時間） 授業後：プリント、資料や教科書を読み返し理解を深めるとともに疑問点を整理する。課題を与えられた場合はその準備をする（２時間）
授業方法	講義・演習 一方的な講義形式ではなく、問題提起に対するディスカッション・質疑応答など取り入れる。また模擬授業に対しては教員および他の学生からのアドバイスを取り入れ、振り返りを行いながら授業を行う。 中学校・高等学校での英語科の授業の実際を知るため、中学校・高等学校での授業参観を予定している（交通費は自己負担）。 デジタル教科書、動画などを取り入れＩＣＴを使った授業を行う、課題はmanabaを使い提出する。
評価基準と評価方法	授業中の発言などの参加（２０％）、模擬授業（３０％）、定期試験（５０％）
履修上の注意	英語の学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。 科目の性質上、生徒を指導する立場を目指すので、遅刻・欠席をしないこと。やむをえず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
教科書	「文部科学省．中学校学習指導要領解説・外国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領解説・外国語編」（平成30年）

参考書	「文部科学省. 中学校学習指導要領・外国語編」（平成29年） 「文部科学省. 高等学校学習指導要領・外国語編」（平成30年）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教授法IB／英語科教育法IB						
担当教員	作井　恵子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q2306B
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	第２言語習得理論を理解し、それをコミュニケーション能力を育成するためにどう応用するかをまず考える。その後教育現場のいろいろなニーズに対応するべく第２言語習得理論からTT,　動機づけ、評価などを考察する。
授業の概要	中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身につけることを全体目標とする。 　この全体目標を鑑み、本講義では英語科教員に必要な第２言語習得理論について学び、その観点からの教材研究を行い、また文法・語彙・発音・文字指導について学習する。また、アクティブ・ラーニング、ティームティーチング、教室英語など指導上必要な英語力は何かを考えながら、教室でそれを行い実践力を養う。また再度、第２言語習得理論に立ち返ること、それに加え学期始まりの授業参観の経験を振り返りながら、たえず学んだ知識を理論と実践面に振り返る指導力を身につけることを目標とする。また観点別評価・パフォーマンス評価についての基礎知識を養う。既習したことを新規学習項目と併せてスパイラル形式に知識および実践力を身につける。
到達目標	1.検定教科書などの教科書、教材を多角的に研究することによりそれらの趣旨・構成・特徴について理解できる 2.４技能５領域の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 3.第２言語習得理論についても理解し、まずその視点から指導できる。 4.ティームティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。 5.主体的な学びを促すアクティブラーニング、生徒の動機づけ、教育現場の多様なニーズに対応できるようにする。 6.さまざまな評価について理解し、指導に生かすことができる。
授業計画	第１回：授業観察のありかた、観点 第２回：授業展開のありかた（中学校授業観察） 第３回：授業展開のありかた（高等学校授業観察） 第４回：第２言語習得理論　概論 第５回：小学校の教材研究 第６回：中学校の教材研究 第７回：文法指導について 第８回：語彙指導について 第９回：音声・文字指導について 第１０回：　第２言語習得論再考（エラーから考える） 第１１回：アクティブ・ラーニングについて 第１２回：教室英語とティーム・ティーチングについて 第１３回：「英語教員に求められる資質」ゲストスピーカー 第１４回：英語教育における評価　（観点別評価・パフォーマンス評価） 第１５回：授業総括と定期試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業内容に該当する教科書や資料を読むこと（２時間） 授業後：プリント、資料や教科書を読み返し理解を深めるとともに疑問点を整理する。課題を与えられた場合はその準備をする（２時間）
授業方法	講義・演習 一方的な講義形式ではなく、問題提起に対するディスカッション・質疑応答など取り入れる。また模擬授業に対しては教員および他の学生からのアドバイスを取り入れ、振り返りを行いながら授業を行う。 中学校・高等学校での英語科の授業の実際を知るため、中学校・高等学校での授業参観を予定している（交通費は自己負担）。 デジタル教科書、動画などを取り入れＩＣＴを使った授業を行う、課題はmanabaを使い提出する。
評価基準と評価方法	授業中の発言などの参加（２０％）、模擬授業（３０％）、定期試験（５０％）
履修上の注意	英語の学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。 科目の性質上、生徒を指導する立場を目指すので、遅刻・欠席をしないこと。やむをえず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。
教科書	「文部科学省．中学校学習指導要領解説・外国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領解説・外国語編」（平成30年）

参考書	「文部科学省. 中学校学習指導要領・外国語編」（平成29年） 「文部科学省. 高等学校学習指導要領・外国語編」（平成30年）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教授法II／英語科教育法II						
担当教員	作井　恵子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23070
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	検定教科書、ICT教材などを含む教材研究、４技能５領域の指導法を理解したうえでの指導計画を立てること。
授業の概要	中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身につけることを全体目標とする。 　この全体目標を鑑み、本講義では英語科教員に必要な実践的な指導力を養うことを目標とし、検定教科書などの教材研究、単元・年間目標設定と指導計画について学ぶ。また指導案を作成し、それに基づく模擬授業を行う。英語における４技能５領域（「聞く」「読む」「話す（やり取り・発表）」「書く」）について、これまでに学んだ第２言語習得理論を振り返りながらその指導についての知識・実践力を養う。またICTなどの機器の使い方、評価についても、既習したことに立脚しつつ、英語科教育法を総括するうえで、さらに理解を深められるようにこれらの項目についてもより多角的に考察・実践できるようにする。
到達目標	1.教科書図書について理解できるようになる。 2.学習到達目標に基づく授業の組み立てに理解し、授業指導に生かすことができる。 3.および指導計画を立てることができるようになる。 4.教材およびICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。 5.４技能５領域の指導方法を理解し、授業指導に生かすことができる 6.複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
授業計画	第１回：検定教科書とは 第２回：教材研究（小学校・中学校の連携から） 第３回：教材研究（高等学校） 第４回：板書について 第５回：英語教育におけるICT　（発展） 第６回：聞くことの指導について 第７回：読むことの指導について 第８回：話すこと（やりとり）の指導について 第９回：話すこと（発表）の指導について 第１０回：書くことの指導について 第１１回：統合的な指導について 第１２回：英語教員という仕事（ゲストスピーカー） 第１３回：単元・年間の目標設定と指導計画 第１４回：模擬授業 第１５回：授業総括と定期試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	模擬授業に関しては、指導案作成、教材研究、教材開発など授業外で準備し臨むこと 授業の予習には平均週２時間ほど時間をかけること。１回の模擬授業には最低５時間の時間をかけること。
授業方法	講義 ただし、一方的な講義形式ではなく、問題提起に対するディスカッション・質疑応答などアクティブラーニングの形態を 取り入れる。 デジタル教科書、動画などを取り入れＩＣＴを使った授業を行う、課題はmanabaを使い提出する。
評価基準と評価方法	授業中の発言などの参加（２０％）、模擬授業（３０％）、定期試験（５０％）
履修上の注意	出席重視、欠席あるいは遅刻の場合は事前に連絡すること
教科書	「文部科学省．中学校学習指導要領解説・外国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領解説・外国語編」（平成30年）
参考書	「文部科学省．中学校学習指導要領・外国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領・外国語編」（平成30年）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教授法III／英語科教育法III						
担当教員	作井　恵子・芝　裕子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24080
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	英語科指導に必要な知識を蓄積し、実践的な指導法を身につける
授業の概要	英語科教育法Ｉ，ＩＩで得た知識を総括し、教授法についての知識をさらに深める 模擬授業を通し実践的な教授力を身につける
到達目標	英語科において必要な教授法の基礎知識について説明できる 学年、教材を想定したうえで、指導案を作成し模擬授業を行うことができる グループ討論などに参加し、自分の考えを明確に表現し議論を行うことができる
授業計画	第１回：学習指導案の書き方（復習）：略案・細案 第２回：教育実習への心構え（英語科） 第３回：授業観察および模擬授業（中学校） 第４回：授業観察および模擬授業（高等学校） 第５回：学習指導案の書き方：英語で 第６回：英語で授業を行うということ 第７回：学級運営と英語の授業 第８回：学習到達目標を理解する（再考） 第９回：異文化を考える 第１０回：　補助教材を考える 第１１回：評価について考える 第１２回：　英語教員になるために 第１３回：教育実習の振り返り 第１４回：授業観察（DVD） 第１５回：　授業総括と定期試験 担当内訳： 第１回、第５回～１２回、第１４、１５回：作井 第２回～第４回、第１３回：芝
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教材研究、指導案作成、教材作成、模擬授業の準備などを期日までにしてくること （各課題について学習時間は週平均３時間ほど、模擬授業準備についてはほぼ５時間ほどを目安とすること）
授業方法	グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れアクティブ・ラーニング型授業を取り入れる。 デジタル教科書、動画などを取り入れＩＣＴを使った授業を行う、課題はmanabaを使い提出する。
評価基準と評価方法	レポート　３０％：英語教育、特にさまざまな教授法についての内容が理解できているかを評価する。到達目標１ 模擬授業　３０％：理論・知識で学んだことが実践に活かされているかを評価する。ルーブリックによる教員評価および相互評価、自己評価を行う。到達目標１，２，３ 定期試験　４０％：英語教育についての内容・理解ができているかを評価する。到達目標１，２
履修上の注意	担当の発表や模擬授業は何度も練習し最大限の努力をもって臨むこと 出席重視、やむを得ず遅刻・欠席するときは事前に連絡すること
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説　外国語編」（平成２９年版） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編」（平成３０年版）ISBN:9784304051784
参考書	文部科学省「中学校学習指導要領」（平成29年版） 文部科学省「高等学校学習指導要領」（平成22年版）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	水田　時男					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23280
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	介護体験を意義深いものとする
授業の概要	中学校教諭の普通免許状を取得するために、介護等体験を行うことが法律によって義務づけられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することが求められている。この授業では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護・援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害のある生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションの取り方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。
到達目標	各施設で迷惑をかけないで、目的にあった充実した実習ができること
授業計画	第1回　制度の意義と内容 第2回　介護体験で何を学ぶか 第3回　社会福祉の意義「障害者の自立」 第4回　特別支援学校における教育 第5回　特別講師による講演 　「介護の実践と留意点」 第6回　高齢者の福祉と介護 第7回　介護等体験の心得および諸注意 第8回～14回　学校及び施設への訪問と視察指導 第15回　体験修了者の反省と課題発表
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	大学での講義 　授業前学習：各回で行う教科書の当該箇所を予習する。前回に指示のあったテーマについて新聞記事を探し、その記事について所定の書式で考察を書く。（学習時間２時間） 　授業後学習：授業内容をまとめ、所定の書式で振返りを作成する。(学習時間１時間) 介護体験実習 　実習前学習：実習に必要な活動内容の確認及び準備をおこなう。（学習時間１時間３０分） 　実習後学習：一日のまとめ及び反省を日誌に記録する。（学習時間１時間３０分）
授業方法	介護体験実習、講義およびグループディスカッション等
評価基準と評価方法	レポート(80%)によるが、授業への取り組みの姿勢(20%)を考慮する
履修上の注意	笑顔と体力が求められる。 体調を十分に整えて参加すること。 実習に欠席遅刻なく参加すること。
教科書	介護等体験ハンドブック五訂版 現代教師養成研究会編　大修館書店 ISBN:978-4-46-926876-8
参考書	特になし

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法I						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23140
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	家庭科を教えるために　-課程論-
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、まず、家庭科成立の経緯などに関する教科変遷、国際的な動向を含めた現状について学ぶ。次に、学習指導要領における目標や内容等の基本的事項、家庭科の教科特性や学習課題の確認を行い、家庭科の授業づくりを行う上での基礎的知識を確認する。
到達目標	・家庭科の教科目標を述べることができる ・学習指導要領の構成を理解し、必要に応じて引用・活用ができる ・家庭科の学習課題と生活問題との関連について述べることができる
授業計画	第１回　ガイダンス　家庭科を振り返る 第２回　家庭科成立の歴史的経緯 第３回　世界の家庭科 第４回　学習指導要領①　構成と教科目標 第５回　学習指導要領②　学習指導案と評価 第６回　家庭科カリキュラムの視点と構想①　青年期の発達課題と家庭科の学習目標 第７回　家庭科カリキュラムの視点と構想②　学習課題・領域マトリクスと学びの構造図 第８回　第１～７回内容の試験①及び講義前半のまとめ 第９回　家庭科の学習課題から生活問題へせまる①　生活自立と家庭科 第10回　家庭科の学習課題から生活問題へせまる②　共生と家庭科 第11回　家庭科の学習課題から生活問題へせまる③　生活主体と家庭科 第12回　家庭科の学習領域から生活問題へせまる①　いのち教育と家庭科 第13回　家庭科の学習領域から生活問題へせまる②　食と家庭科 第14回　家庭科の学習領域から生活問題へせまる③　衣・住と家庭科 第15回　試験②と質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：各授業について、テキストの該当ページを事前に一読すること。(2時間) 授業後：授業で学んだことについて、要点をノートに整理し、不明な点は速やかにテキストで確認するか、質問するなどをして知識を補うこと。(2時間)
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。
評価基準と評価方法	試験２回（70%）、小レポート(20%)、授業参加態度・ワークシート記入状況（10%）などにより総合的に評価する。
履修上の注意	・原則すべての講義に出席すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
教科書	荒井紀子編著. 新版 生活主体を育む. 2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). ¥2,400(税別) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説-技術・家庭科編-（平成29年） (ISBN: 978-4-3040-2154-1) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-（平成30年）　教育図書出版 (ISBN: 978-4-8773-0419-5)
参考書	必要に応じて紹介する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法II						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23150
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	家庭科を教えるために　-教材論-
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、教材開発を中心に、家庭科の授業づくりの一連を確認する。その中で、学習指導案の作成において必要な知識を身につけるとともに、作成した教材の発表を通じて「家庭科指導法Ⅲ」につながる授業実践の基礎を養う。
到達目標	・家庭科における教材、教具の意義について述べることができる ・授業での活用を意図した教材開発を行い、その概要を分かりやすくまとめ、発表することができる
授業計画	第１回　講義ガイダンス（家庭科Ｉの学びの振り返り） 第２回　学校教育現場での授業参観（於：松蔭中高） 第３回　学校教育現場での授業参観（於：松蔭中高） 第４回　教材とは 第５回　食分野における教材活用の例 第６回　家族分野における教材活用の例 第７回　衣・住分野における教材活用の例 第８回　消費生活分野における教材活用の例 第９回　各活用事例についての検討会（ディスカッション形式） 第10回　ICT機器を活用したアクティブ・ラーニングの例 第11回　教材作成と発表①（ICT機器を用いて） 第12回　教材作成と発表②（ICT機器を用いて） 第13回　作成した教材について検討会（（ICT機器を用いて） 第14回　作成した教材の改善（Plan Do Seeの視点から） 第15回　講義全体のまとめと質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。また、理解が不十分な点をテキストなどで補うこと。(2時間) 授業後：講義内で終えることができなかった課題については、講義外の時間を活用し各自で積極的に取り組むこと。(2時間)
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。
評価基準と評価方法	教材についてのプレゼンテーション２回(60%)、授業課題取組み状況・ワークシート記入状況（40%）で総合的に評価する
履修上の注意	・家庭科教育法Ⅲと並行して履修すること。 ・原則すべての講義に出席すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・学外研修（授業参観）に行く際の交通費は実費負担とする。
教科書	荒井紀子編著. 新版 生活主体を育む. 2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). ¥2,400(税別) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説-技術・家庭科編-（平成29年） (ISBN: 978-4-3040-2154-1) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-（平成30年）　開隆堂. (ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037). ¥267(税別)
参考書	必要に応じて紹介する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法III						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23160
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	家庭科を教えるために　-授業論-
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、授業実践に必要な知識・技能を身につける。また、教育実習を見通した模擬授業の検討も行う。
到達目標	・授業について批判的検討ができる ・題材設定から本時の授業までを視野に入れた学習指導案（細案）が作成できる ・自分が作成した学習指導案に基づき、模擬授業が実践できる
授業計画	第１回　ガイダンス（家庭科Ⅰ、Ⅱの振り返り） 第２回　学習課題・領域マトリクスと学びの構造図について 第３回　家族領域授業検討　「幼児を招こう」の授業（中学校） 第４回　住領域授業検討　「まちづくりを考えよう」の授業（高校） 第５回　領域横断的授業検討　「炊き出し応援隊」の授業（中学校） 第６回　領域横断的授業検討　「年金と生活経済」の授業（高校） 第７回　模擬授業立案①　題材の選定と指導案作成 第８回　模擬授業立案②　指導案作成と質疑応答 第９回　模擬授業立案③　指導案作成と批判的検討 第10回　模擬授業立案④　指導案作成と模擬実践 第11回　模擬授業と検討会① 第12回　模擬授業と検討会② 第13回　模擬授業と検討会③ 第14回　模擬授業と検討会④ 第15回　講義全体のまとめと質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。理解が不十分な点はテキストなどを読み補うこと。(2時間) 授業後：授業時間で補えない内容は、重点的に復習すること。また、自発的かつ発展的な学習を積極的に行うこと。（2時間）
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。
評価基準と評価方法	レポート課題２回(60%)、授業課題取組み状況・ワークシート記入状況（40%）
履修上の注意	・家庭科教育法Ⅱと並行して履修してください。 ・原則すべての講義に出席すること。 ・20分以上の遅刻は、欠席とみなします。
教科書	荒井紀子編著. 新版 生活主体を育む. 2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). ¥2,400(税別) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説-技術・家庭科編-（平成29年） (ISBN: 978-4-3040-2154-1) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-（平成30年）開隆堂. (ISBN: 978-4-304-04166-2 C3037). ¥267(税別)
参考書	北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編. 考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-. 2014. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037). ¥2,600(税別)

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法IV						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24170
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	家庭科を教えるために　-評価・分析論-
授業の概要	本科目は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、授業の評価・分析を中心に学ぶ。具体的には、教育実習において各自が行う授業を取り上げ、授業目標に適合した評価のあり方や授業展開等に関する学生同士の検討を通じ、自らの授業についての学習指導案の作成及び模擬授業を行う。
到達目標	・授業目標に適合した評価計画を作成することができる。 ・授業評価・分析によって得られた情報から、改善授業案（学習指導案）を作成することができる。
授業計画	第１回　ガイダンス（家庭科Ⅰ～Ⅲの学びの振り返り） 第２回　家庭科をめぐる最新の教育動向 第３回　家庭科とアクティブ・ラーニング 第４回　学習指導案作成（実習で担当する箇所について、評価規準の確認を中心に） 第５回　学習指導案と題材開発（参考指導案の選定） 第６回　学習指導案と題材開発（指導案の作成） 第７回　食領域の模擬授業 第８回　食領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第９回　衣・住領域の模擬授業 第10回　衣・住領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第11回　消費生活領域の模擬授業 第12回　消費生活領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第13回　家族領域の模擬授業 第14回　家族領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第15回　まとめと質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。理解が不十分な点は次の講義までにテキストなどを読んで理解しておくこと。それでも分からなければ質問を用意しておくこと。(2時間) 授業後：授業で理解が不足していた内容は、重点的に復習すること。また、自発的かつ発展的な学習を積極的に行うこと。(2時間)
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。
評価基準と評価方法	模擬授業指導案（60%）、授業参加態度・ワークシート記入状況（40%）などを総合的に評価する。
履修上の注意	原則すべての講義に出席すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータ収集のため、学外で授業を行うことがあるので、入場料、交通費などの実費負担がある。
教科書	「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」（平成29年） (ISBN: 978-4-3040-2154-1). 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-（平成30年）　教育図書出版 (ISBN: 978-4-8773-0419-5)
参考書	荒井紀子編著. 新版 生活主体を育む. 2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編. 考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-. 2014. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037). ¥2,600(税別) 「中学校学習指導要領」（平成29年版） 「高等学校学習指導要領」（平成22年版）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校教育心理学／教育心理学						
担当教員	保坂　裕子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q21030
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	学校教育の心理学
授業の概要	教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者によい影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、社会性の発達などについて詳しく検討する。人の成り立ちが知能や人格特徴等の単一の要因によるのでなく、心身の相互作用によることを理解する。また、学習とはどこかにある答えを覚えることという学習観を改め、自ら工夫して主体的に学ぶことを目指すものであることを自覚し、その指導方法を身につける。
到達目標	教育活動に必要な以下の心理学的知識を身につける。①認知発達、②学習心理学、③情緒発達、④社会性の発達、⑤効果的な学習方法、⑥心理査定と学習評価
授業計画	第１回　わかる喜び学ぶ楽しさ 第２回　エリクソンの生涯発達論 第３回　ピアジェの認知発達論 第４回　思春期・青年期の知的発達 第５回　思春期・青年期の心と体 第６回　社会性の発達 第７回　学習と記憶 第８回　学習と動機づけ 第９回　やる気と学習アイデンティティ 第10回　メタ認知と自己調整学習 第11回　頭の良さとは何か 第12回　効果的な学習方法とその指導 第13回　生徒の心理アセスメントと学習評価 第14回　教師の心理、リーダーシップ 第15回　学級集団　筆記試験（持ち込み不可）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に１）各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、授業後には２）授業中に示した課題について報告文を作成し、１）と２）を合わせてA4紙1枚の3前半と後半に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間は各２時間ずつ。
授業方法	講義、グループ討論、視聴覚教材の使用。
評価基準と評価方法	平常点（７０％）と学期末の筆記試験（３０％）により評価を行う。
履修上の注意	休まずに授業の最初から出席する、授業中は集中して受講する等、基本的な学習態度が要求される。
教科書	藤本　浩一、他　2019『読んでわかる児童心理学』　サイエンス社
参考書	タイトルに「教育心理学」が含まれる書物

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校ボランティア実習						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q22290
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	スクールサポーターとしての学校支援ボランティア活動
授業の概要	スクールサポーターとして、学校教育現場で定期的にボランティア活動を行う。内容は、児童生徒の学習支援や学校行事の運営補佐等、配属校のニーズに応じた多岐に亘る活動となる。本活動によって得られた体験については、レポートにまとめる。これら一連の活動は「実習」として捉え、受講生は、本実習を通じて教職を志す者としての自覚を形成し、主体的な学習意識を高めることが期待される。
到達目標	・学校教育現場の実態に応じた活動に積極的に取り組むことができる ・教職を志す者としての自覚や学習への主体性を高めることができる
授業計画	【実習前の講義】 本講義のガイダンスを行う。主な内容は、児童生徒への理解と接し方、挨拶、服装、自己紹介の仕方、教育支援の方法、報告書の書き方、安全管理及び配慮、守秘義務の厳守等についてである。 第１回　教育現場の現状（小・中学校を中心に） 第２回　子どもたちに自分を知ってもらう（自己紹介と自己開示） 第３回　教育現場におけるボランティアの意義と現状 第４回　個人発表と討議（学校ボランティア活動の目標） 【配属校での観察実習（15回以上）】 　定期的に実習を行う。活動毎に、必ず報告書を書き、その日に経験したこと、学んだこと等について詳細な記録をとる。各自の活動については、担当教員が配属校へ巡回訪問・実地指導を行う場合がある。 【実習後の講義】 　各自の活動報告及び反省会を行う。活動を通して感じたこと、考えたこと、学んだことについて、報告書をもとにレポートとしてまとめる。 第５回　個人発表（教育現場で得た経験についての報告） 第６回　討議（各自の課題とそれを解決するための手立て） 第７回　教育現場におけるボランティアの将来展望 第８回　終講課題（小論文）と質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前：配属校の特色、教育目標や活動内容等について事前にインターネットや書籍を通じた情報収集を行う（１時間） 事後：活動毎の報告書は実習後、記憶が鮮明なうちに速やかに記入する。(30分間)
授業方法	各配属校での実習活動、講義と講話、グループ討論
評価基準と評価方法	報告書の記入状況(60%)、配属校担当教員の評価(30%)、レポートの内容(10%)
履修上の注意	・実習回数は、半日の場合を「１回」、終日の場合を「２回」として数える。 ・合計で15回以上の活動を最低条件とする。 ・児童生徒との実習外での連絡、交友は禁止する。 ・本実習で知り得た個人・学校組織情報は守秘義務を厳守する。
教科書	実習活動状況に応じてその都度配布する。
参考書	特になし

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程総論／教育課程論						
担当教員	大下　卓司					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q22050
学期	後期　前半	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。
授業の概要	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の4つを主たる目的として授業内容を構成する。第1に、各学校段階（幼稚園・保育所なども含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第2に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、内容に基づくカリキュラムと能力に基づくカリキュラムの違い、教育課程・カリキュラムと授業及び評価との関わりについて理解を深める。第3に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解を深める。第4に、不登校問題の子どもに対する教育課程の在り方、学校の支援について学ぶ。
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する。
授業計画	第１回：教育課程とは何か （時間割から、中・高の教育課程を概観する） 第２回：学習指導要領と教育課程の編成原理 第３回：教科のカリキュラムと教科横断的な学び 第４回：　学習指導要領に見る教育課程の変遷1 （経験主義と系統主義） 第５回：学習指導要領に見る教育課程の変遷2 （経済発展と教育内容の現代化、ゆとり） 第６回：　学習指導要領に見る教育課程の変遷3 （生きる力、活用、コンピテンシー） 第７回：単元設計から学ぶカリキュラムマネジメント 第８回：学力調査とカリキュラム評価、試験と講義全体の振り返り
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業計画のキーワードを参照してテキストの該当部分を事前に読んでおく（2時間） 事後学習：授業で学んだ内容をテキストに沿って復習する（2時間）
授業方法	講義中心となるが、教育課程をめぐる様々な問題について映像資料など多様な教材を用いて授業を行う。
評価基準と評価方法	授業毎の小レポートおよび筆記試験による
履修上の注意	授業が8回と少ないため、密度の濃い授業を行うことになる。疑問点などを解消しながら、学びを進めてもらいたい
教科書	田中耕治『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2017年
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年）』、『中学校学習指導要領（平成29年）』 『高等学校学習指導要領（平成30年）』

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育経営学						
担当教員	水田　時男・江上　直樹					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q22040
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	これからの学校に求められるもの
授業の概要	生徒が共に学び、共に成長できる学校教育の実践を目指し、学校教育目標、学校の組織・運営、教職員の協力・連携等から学校の経営の在り方について考察する。また、戦後の教育の歩みと主要課題を社会的変動の中で明らかにし、見え難い今後の教育の方向や課題を探り、少子高齢化時代、生涯学習時代、高度情報化時代の中での今後の教育経営の在り方について探求する。また、教育経営の基礎となる教育関係法規について、教育行政や教育制度からの視点を加え学習を深める。
到達目標	学校現状と課題を理解し、教育経営を法規上で解釈することができる
授業計画	第１回　オリエンテーションと教育経営の概説（担当：江上） 第２回　教育委員会―教育行政の制度と経営教育制度（担当：江上） 第３回　教員採用―教師教育の制度と経営（担当：江上） 第４回　学級編成―学級編成・教員配置の制度と経営（担当：江上） 第５回　不登校対応―発達支援・教育支援の制度と経営（担当：江上） 第６回　教育予算―学校財政の制度と経営（担当：江上） 第７回　学校経営―保護者・住民参画の制度と経営（担当：江上） 第８回　地方分権―地方分権・地方自治の制度と経営（担当：江上） 第９回　学校経営と教育目標（担当：水田） 第10回　学校の組織の構築（KJ法）（担当：水田） 第11回　発表と検討（担当：水田） 第12回　学校の組織と経営の実態（担当：水田） 第13回　これからの教育経営―開かれた学校づくり―（担当：水田） 第14回　生徒指導と法規（担当：水田） 第15回　教育経営のまとめ（担当：水田）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	江上担当 授業前学習：毎回授業で扱う内容の該当箇所の予習（学習時間1時間30分） 授業後学習：学習カードの作成（学習時間1時間30分）、最終レポート作成（学習時間2時間） 水田担当 授業前学習：毎回授業で扱う内容の該当箇所の予習及びテーマに沿った新聞記事の考察（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容をまとめ、所定の書式で振返りを作成（学習時間1時間30分）
授業方法	江上担当：講義とグループ協議 水田担当：講義とグループ協議、プレゼンテーション
評価基準と評価方法	江上担当分は、毎回提出する学習カード50%、まとめとして提出するレポート50%により総合評価する。 水田担当分は、授業の取り組み姿勢（40%）、レポート提出（40%）、発表の成果（20%）で評価する。 総合評価は、江上担当（50%）と水田担当（50%）とする。
履修上の注意	江上担当においては、学習カードを毎回提出するとともに、まとめのレポートを提出すること。 水田担当においては、毎授業の振返りと新聞記事についての考察を所定の書式で作成して提出すること。
教科書	特に指定なし。講義で適宜配布する。
参考書	講義の時に適宜配布する。第1回、第9回から第15回については「中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）」 「中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）」「高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月）」 「高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年7月）」、文部科学白書（令和元年度）、教育課題便覧（学陽書房）を使用 する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原論／教育原理						
担当教員	松岡　靖・奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q22020
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育の歴史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、現在に至る教育と中学校・高校の変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や中学校･高校との関わりを理解することである。 具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化社会、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する。
授業計画	第１回　オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想（担当：松岡） 第２回　学校教育の理念 (1)：人間の発達と教育段階の関連（担当：松岡） 第３回　学校教育の理念 (2)：小学校就学と高校進学の歴史（担当：松岡） 第４回　学校教育の理念 (3)：目的・内容・方法の多様性（担当：松岡） 第５回　学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行（担当：松岡） 第６回　学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷（担当：松岡） 第７回　学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習への要請（担当：松岡） 第８回　臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド（担当：奥井） 第９回　臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係（担当：奥井） 第10回　教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価（担当：松岡） 第11回　教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括（担当：松岡） 第12回　教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ（担当：松岡） 第13回　教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史（担当：松岡） 第14回　成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表（担当：松岡） 第15回　成果の活用(2)：授業のまとめと教育評価（担当：松岡）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	１.参加者が自分の物語をテキストとして考察する（学習時間計20時間）。 ２.時事問題に隠れた教育原理上の課題を発見する（学習時間計20時間）。 ３.期末レポートの作成と発表に楽しんで取り組む（学習時間計20時間）。
授業方法	１.前半では配付資料と教科書について主に教員が解説する。 ２.中盤では視聴覚教材を使ってグループワークを実施する。 ３.後半ではレポート作成とプレゼンテーションを実施する。
評価基準と評価方法	１．平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） ２．レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）
履修上の注意	１.授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 ２.私語等で受講者に迷惑をかけるならようなら欠席すること。 ３.原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。
教科書	『教育原理を組みなおす』、松下晴彦ほか編、名古屋大学出版会、2021年、978-4-8158-1045-0
参考書	特に指定しない。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育社会学（中・高）						
担当教員	長谷川　誠					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q22320
学期	後期　後半	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	学校の社会的機能を理解し、教育政策の動向を把握する。
授業の概要	教育社会学は、さまざまな教育現象を社会学的に研究する学問領域である。講義では、教育と選抜、社会階層と教育、情報化と教育といった教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題、例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について、教育社会学の理論や分析手法を用いて検討を加えていく。これにより、事象を個人的な経験を基にした主観的な見方ではなく、客観的に捉える力を養うことを目指していく。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目的とする。
到達目標	教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会学的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養う。
授業計画	第１回：教育社会学とは何か 第２回：日本の教育政策の動向－諸外国との比較から－ 第３回：教育をめぐる格差問題 第４回：教育問題①－ネットいじめ問題 第５回：教育問題②－不登校の問題 第６回：教育問題③－特別な支援を必要とする子どもへの対応 第７回：学校と地域社会との連携 第８回：学校安全への対応
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教育社会学に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分） 授業内容を踏まえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）
授業方法	講義およびグループディカッションを中心に行う
評価基準と評価方法	・課題試験60%：授業で扱った教育と社会の関係性に対する理解度、社会における教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価するとともに、到達度目標（１）から（３）に関する確認。 ・平常点40%：リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述の的確性や、それを基にしたディスカッションへの参加態度を評価するとともに到達度目標（１）から（３）に関する確認。
履修上の注意	出席及び授業への参加度重視。欠席した場合には、必ず相談すること。
教科書	原 清治、山内 乾史（2019）『新しい教職教育講座　教職教育編③　教育社会学』ミネルヴァ書房 978-4623081868
参考書	授業中に指示する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（高）						
担当教員	丸山　果織					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24250
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	教育実習
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。
到達目標	・教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。 ・教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。 ・生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。
授業計画	本科目は、事前指導３回、実習校における教育実習、事後指導１回で構成される。ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。具体的には下記の通り進める。 第１回　事前指導（教科指導の心得） 第２回　事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー 第３回　事前指導（教科指導の目標設定） 教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける ・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に１度） ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う) ・実習期間終了後の報告等 （実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める） 第４回　事後指導（教職実践演習(中・高)へ向けた課題の整理と反省）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	充実した実習になるよう余念なく準備する（学習時間：90分）
授業方法	実習（事前・事後指導を含む）
評価基準と評価方法	実習校からの報告(50%)、「教育実習記録」の記入状況(40%)、事前事後指導の授業内課題への取り組み(10%)
履修上の注意	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。 実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。
教科書	必要に応じて配付する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（中・高）						
担当教員	奥井　一幾					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	教育実習
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。
到達目標	・教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。 ・教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。 ・生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。
授業計画	本科目は、事前指導３回、実習校における教育実習、事後指導１回で構成される。ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。具体的には下記の通り進める。 第１回　事前指導（教科指導の心得） 第２回　事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー 第３回　事前指導（教科指導の目標設定） 教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける ・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に１度） ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う) ・実習期間終了後の報告等 （実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める） 第４回　事後指導（教職実践演習(中・高)へ向けた課題の整理と反省）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教育実習に向けての模擬授業の準備（学習時間4時間を目安とする）、振り返り（学習時間1時間を目安とする）
授業方法	講義および演習形式
評価基準と評価方法	実習校からの報告(50%)、「教育実習記録」の記入状況(40%)、事前事後指導の授業内課題への取り組み(10%)
履修上の注意	これまで蓄積してきた知識を総括して実践力を養う授業であるため教職に関する授業の内容を適宜復習しながら授業にのぞむこと。
教科書	必要に応じて配付する。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（中・高）						
担当教員	作井　恵子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	教育実習
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。
到達目標	・教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。 ・教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。 ・生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。
授業計画	本科目は、事前指導３回、実習校における教育実習、事後指導１回で構成される。ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。具体的には下記の通り進める。 第１回　事前指導（教科指導の心得） 第２回　事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー 第３回　事前指導（教科指導の目標設定） 教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける ・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に１度） ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う) ・実習期間終了後の報告等 （実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める） 第４回　事後指導（教職実践演習(中・高)へ向けた課題の整理と反省）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	：教育実習に向けての模擬授業の準備（学習時間4時間を目安とする）、振り返り（学習時間1時間を目安とする）
授業方法	講義および演習形式
評価基準と評価方法	実習校からの報告(50%)、「教育実習記録」の記入状況(40%)、事前事後指導の授業内課題への取り組み(10%)
履修上の注意	これまで蓄積してきた知識を総括して実践力を養う授業であるため教職に関する授業の内容を適宜復習しながら授業にのぞむこと。
教科書	必要に応じて配付する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（中・高）						
担当教員	田中　まき					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	教育実習
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。
到達目標	(1) 教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。 (2) 教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。 (3) 生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。
授業計画	本科目は、教育実習の事前指導３回、実習校における教育実習、事後指導１回で構成される。 ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。 具体的には下記の通り進める。 第１回　事前指導（教科指導の心得） 第２回　事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー 第３回　事前指導（教科指導の目標設定） 教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける ・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に１度） ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う) ・実習期間終了後の報告等 （実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める） 第４回　事後指導（教職実践演習(中・高)へ向けた課題の整理と反省）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：学習指導案の作成・実習授業のための模擬授業の準備（2時間） 授業後学習：学習指導案の修正、模擬授業の振り返り（2時間）
授業方法	実習と事前・事後指導
評価基準と評価方法	実習校からの報告(50%)　到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 「教育実習記録」の記入状況(40%)　到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 事前事後指導の授業内課題への取り組み(10%)　到達目標（1）に関する到達度の確認。
履修上の注意	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。 実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
参考書	適宜、提示する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（中・高）						
担当教員	丸山　果織					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	教育実習
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。
到達目標	・教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。 ・教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。 ・生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。
授業計画	本科目は、事前指導３回、実習校における教育実習、事後指導１回で構成される。ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。具体的には下記の通り進める。 第１回　事前指導（教科指導の心得） 第２回　事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー 第３回　事前指導（教科指導の目標設定） 教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける ・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に１度） ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う) ・実習期間終了後の報告等 （実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める） 第４回　事後指導（教職実践演習(中・高)へ向けた課題の整理と反省）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	充実した実習になるよう余念なく準備する（学習時間：90分）
授業方法	実習（事前・事後指導を含む）
評価基準と評価方法	実習校からの報告(50%)、「教育実習記録」の記入状況(40%)、事前事後指導の授業内課題への取り組み(10%)
履修上の注意	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。 実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。
教科書	必要に応じて配付する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習指導（中・高）						
担当教員	水田　時男					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23230
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	学校現場において、「教員」として先輩教員と協働し教育活動を進めていく資質を身につける。
授業の概要	学校は、教育目標と校長の経営方針に沿って、教職員が協働して生徒の教育を行う場である。教育実習生とはいえ教壇に立つ者は「先生」としてのあり方を意識し、先輩教員と協働して教育を進めていく姿勢が求められる。来年度の教育実習に先立ち、教科指導以外の教育活動を具体的にイメージし、実習に臨む心構えと姿勢を整える。
到達目標	学校現場で、その目的に応じた具体的な場面でのあり方をイメージできる。
授業計画	第1回　教育実習の意義と課題 第2回　教育実習の日々 第3回　生徒指導の意義と課題 第4回　生徒指導の実際 第5回　カウンセリングマインドとコーチング（演劇的手法を用いたゲストスピーカーによるワークショップ） 第6回　カウンセリングマインドとコーチングに基づいたホームルーム経営 第7回　協働する姿勢（打ち合わせや会議への臨み方） 第8回　教育活動の諸課題と教師としての臨み方
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：教育に関するテーマについて新聞記事を探し、その記事について所定の書式で考察を書く。（学習時間２時間） 授業後学習：授業内容をまとめ、所定の書式で振返りの作成及び最終レポートの作成。（学習時間１時間）
授業方法	講義、グループディスカッション、ロールプレイなど。
評価基準と評価方法	課題の内容と提出状況（50%）、授業への参加についての意欲・態度・関心（30%）、最終レポート「私はなぜ教職を選んだか」の内容（20%）。
履修上の注意	将来、教壇に立ち、児童・生徒を育てていくことを前提とした授業である。従って、社会人としてのマナーはもとより、無遅刻・無欠席を求める。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は必ず事前に連絡を入れること。
教科書	特になし。プリントを配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育相談の理論と方法（中・高）／教育相談の理論と方法						
担当教員	志田　望					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23220
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	教育相談における臨床心理学的理論と方法
授業の概要	本講義では、学校現場で起こるさまざまな問題に対する見立てのために必要な理論の講義と、それに伴う実践的なカウンセリング演習を行う。また、実際に学校現場で起こっている事例について検討する。グループ演習を通して、生徒や保護者、教職員の理解の仕方や働きかけ方について学ぶ。特別支援教育については、対象となる生徒の特徴の見分け方、教室での対応の仕方、支援計画の立て方、保護者対応で考慮すべき点を理解できるようにする。
到達目標	・教育相談やカウンセリングについて、いくつかの理論による見立てと働きかけ方の習得。 ・様々な事例についてグループディスカッションを行い、生徒・教職員とのやりとりについて演習を通して理解する。 ・特別支援教育における保護者や教員のニーズの捉え方、配慮すべき点、支援プログラムの立て方について。
授業計画	第1回：教育相談の役割 第2回：教育相談の概論ー教育相談の枠組み 第3回：カウンセリングの基礎 第4回：教育相談におけるアセスメント（１）3分類 第5回：自律訓練法・リラクゼーション 第6回：不登校の理解 第7回：主訴と共感的理解 第8回：教育相談の面接展開と情報収集-想像力 第9回：教育相談におけるアセスメント（２）心理テスト 第10回：教育相談における働きかけ 第11回：学校臨床におけるグループダイナミクス 第12回：保護者・教員との協働ーコンサルテーション 第13回：特別支援教育ー行動療法によるアセスメント 第14回：特別支援教育ー行動療法による支援計画と対応 第15回：教育相談まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ロールプレイ等の実践的な内容が多いため、ノートをとる時間が少ない可能性が考えられる。毎回の講義後に、内容をノートにまとめるなど、学習内容の定着をはかること。毎回の講義後、最低30分程度、次回以降の講義内容との関連性を各自検討しておくこと。
授業方法	講義に加えて、実践形式のロールプレイを中心に行う。
評価基準と評価方法	平常点：出席状況と講義の積極的な参加(30%) レポート：小レポートの提出(30%) 試験：期末試験による評価(40%) 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適正」の３観点で行なう。
履修上の注意	不明な点があれば、積極的に質問すること。
教科書	特になし
参考書	吉川悟編（1999）システム論からみた学校臨床、金剛出版 吉川悟編（2009）システム論から見た援助組織の協働、金剛出版

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育という仕事						
担当教員	水田　時男					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q21270
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	学校教育活動の諸側面、社会とのつながりを意識させる教育支援のあり方、学校教職員として保護者・地域との連携のしかた等についての知識を深める。
授業の概要	この授業は、教師がおこなう幅広い仕事の実態を知り、自らの教育的資質を養うことを目的とする。あわせて、教師として必要な社会人としての幅広い知見を養う。 　具体的には、学生のグループワーク（議論や演習）を通じて、教師と保護者・児童生徒・地域住民等の視点を意識しながら、①教育活動を分析的に見る観点を理解し、②教育活動展開の具体的な方法を学ぶ。
到達目標	１　学校現場のニーズに対して自らが行う教育支援について考えることができる ２　教師としての自覚を高め、服務の重要性を理解することができる
授業計画	第1回　学校教育と私 第2回　新聞記事を通して見える教育の課題 第3回　教育課題①　キャリア教育と進路指導１ 第4回　教育課題①　キャリア教育と進路指導２（発表） 第5回　教育課題②　情報化社会と人権教育１ 第6回　教育課題②　情報化社会と人権教育２（発表） 第7回　教育課題③　グローバル社会と国際理解教育１ 第8回　教育課題③　グローバル社会と国際理解教育２（発表） 第9回　教育課題④　学校事故と開かれた学校づくり１ 第10回　教育課題④　学校事故と開かれた学校づくり２（発表） 第11回　教育課題⑤　いじめのない学校づくり１ 第12回　教育課題⑤　いじめのない学校づくり２（発表） 第13回　教育課題⑥　インクルーシブ教育１ 第14回　教育課題⑥　インクルーシブ教育２（発表） 第15回　教育という仕事のまとめ・・・「チーム学校」と社会総がかりの教育の観点から
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業テーマに関連する新聞記事を収集及びその記事の考察の作成（学習時間２時間） 授業後学習：前時の講義内容についての振返りの作成（学習時間２時間）
授業方法	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、相互評価など
評価基準と評価方法	毎時のレポート課題の提出状況及び内容（50%）、講義参加の意欲・態度(30%)、発表の態度及び成果（20%）
履修上の注意	毎時、課題をもとに授業を進める。課題に対して真摯に取り組むこと。 また、将来教壇に立ち、児童・生徒を育てていくことを前提とした授業である。従って、社会人としてのマナー、および協働する姿勢、無遅刻・無欠席を求める。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡を入れること。 オフィースアワー：水曜日13：10～14：40（1号館6階研究室）　　連絡先：tokioryo675@shoin.ac.jp
教科書	特に指定しない
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育方法論						
担当教員	大下　卓司					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q22200
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	授業づくりの基礎・基本
授業の概要	まず、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価など、授業づくりに必要な基本的な知識と技術を学ぶ。次に実践事例の分析を行い、先に学んだ事項が実践にどのように具体化されているのかを検討する。以上をふまえて最後に、各自が学習指導案を作成し、受講生同士の相互検討を通してよりよいものへと改善していく。
到達目標	・授業づくりに必要な基本的な知識と技術を獲得する ・これまでに実践されてきた授業を検討し、授業の特徴を把握できる ・学習指導案を作成できるようになる ・受講生同士で他者の指導案を検討し、改善に向けて議論ができる
授業計画	第１回 オリエンテーション：　授業概要の説明／「よい授業」とはどのような授業だと考えるかについて議論する。 第２回 授業の構成要素（１）：　教育目標・教材・教授行為・学習形態の概要と実践に生かす際の留意点について学ぶ。 第３回 授業の構成要素（２）：　教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点について学ぶ。 第４回 授業の構成要素（３）：　効果的な発問や板書の類型や方法について学ぶ。 第５回 教育実践事例の検討（１）：　子どもをひきつける教材のあり方について考える。 第６回 教育実践事例の検討（２）：　討論を取り入れた授業のあり方について考える。 第７回 教育実践事例の検討（３）：　ワークショップ型の授業のあり方について考える。 第８回 教育実践事例の検討（４）：　探究型の授業のあり方について考える。 第９回 学習環境の工夫：　効果的な学習を実現するための環境づくりについて考える。 第10回 情報機器の活用した授業：　ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。 第11回 学習指導案づくり（１）：　学習指導案のつくり方について学び、実際に作成してみる。 第12回 学習指導案づくり（２）：　学習指導案づくりを行う（前回の続き） 第13回 模擬授業：　作成した指導案に沿って授業を行い、指導案を改善する。 第14回 子どもとの向き合い方：　教師としてどのようなことに気をつけながら子どもと向き合い、教育実践を進めていくのかについて考える。 第15回 まとめと教育改革動向の説明：　能力ベースのカリキュラム、アクティブラーニングについて
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業計画に基づいて自分の取得する免許の教科ではどのように具体化されるのかイメージをもつ。模擬授業の準備（2時間） 事後学習：自分の取得する免許の教科について、講義内容からどのように具体化されされるのか考えるとともにイメージを修正する。模擬授業後受けた指導をもとに実践を考え直す（2時間）
授業方法	講義中心とはなるが、授業でディベートを取り入れたり、学生が模擬授業を行うなど、主体的に学び、表現することが求められる。
評価基準と評価方法	・平常点５０％（講義でのワークシートや小レポート、模擬授業の発表）、最終レポート５０％から総合的に判断する。 ・５回以上欠席した場合には単位認定は行わない。 ・「意欲」については、講義への参加の様子や授業毎の課題などの完成度を中心に評価する。 ・「知識」については、小レポートや最終レポートの完成度を中心に評価する。 ・「適性」については、講義への参加の様子や提出物の完成度を中心に、総合的に評価する。
履修上の注意	履修者にもよるが、グループで模擬授業をすることが予想される。教師として自らもグループ学習をコーディネートする可能性をがあることを自覚したうえで、グループでの学びにも積極的に参加するすることが求められる。
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	①田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年 ②田中耕治編著『時代を拓いた教師たちー戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年 ③田中耕治『新しい時代の教育方法』有斐閣、2013年 文部科学省『保育所保育指針（平成29年）』、『幼稚園教育要領（平成29年）』、『小学校学習指導要領（平成29年）』 『中学校学習指導要領（平成29年）』、『高等学校学習指導要領（平成30年）』

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職原論／教師論						
担当教員	大石　正廣					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q21010
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	児童・生徒、保護者、地域から信頼され、よき同僚として協働できる教師像を追求する
授業の概要	書籍・新聞などから教育観や教職の歴史的変遷を学ぶ。児童・生徒としての自己の体験を見つめなおし、新聞記事なども参考に、現代の教育課題について考える。児童・生徒の発信するかすかなシグナルを受信して彼らが安心して主体的な自己であり続けられるよう支援できる教員の在り方について理解を深める。子供の発達段階への理解を深め教員の受容的なあり方の意味について考える。
到達目標	自身の適格性について考察し、教職への意欲を高める。
授業計画	第１回　教員という専門職への基礎知識 第２回　教員の生き方１：過去の教育者から学ぶ 第３回　教員の生き方２：文芸にみる学校と教員 第４回　現代日本における教職の意義 第５回　現代日本における教員の役割 第６回　教員の仕事１：学級経営 第７回　教員の仕事２：学習指導 第８回　教員の仕事３：生徒指導 第９回　教員の養成・採用・服務 第10回　教員による研修と自己研鑽 第11回　チーム学校運営への対応と必要性 第12回　進路指導に役立つ職業教育の配慮 第13回　生徒・後輩・同僚に対するコーチング 第14回　演劇的手法を体験する：関係づくりとHR運営 第15回　個々の学生が目指す教師像の可視化
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする。（2時間） 授業後学習：配布のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。
評価基準と評価方法	毎時間のレポートの内容と提出状況（50%）、授業やグループワークへの取り組み・発表（30%）、試験（20%）で評価する。
履修上の注意	１．グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。 ２．授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。 ３．出席が10回以上でないと期末試験の受験資格を失うものとする。
教科書	プリントを配布する 「教職論」教員を志すすべてのひとへ」教職問題研究会編　ミネルヴァ書房 ISBN4-623-03640-5
参考書	特になし

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	奥井　一幾・水田　時男					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24260
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	学生が教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける。
授業の概要	主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う 2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める 3. 教科内容等の指導力を高める 4. 社会性や対人関係能力を伸ばす
到達目標	1.教員になるという前提での自己分析ができる 2.教員としての使命感や責任感を感じる 3.生徒指導や学級経営の知識と技能がつく 4.模擬授業を通して教科の指導力がつく 5.社会人としての基本的態度や協調性がつく
授業計画	水田　時男（10回担当）：第１～7回、13回～15回（全回、他教科と合同で実施） 奥井　一幾（ 5回担当）：第8～12回 第1回　履修カルテへの記録と気付き 第2回　教育実習を振り返って 第3回　教師の使命感と責任 第4回　教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外）と発表 第5回　生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第6回　生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第7回　学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回　教育実習を体験して分かった課題（教科・家庭科に焦点化して） 第9回　アクティブ・ラーニングと家庭科カリキュラム 第10回　アクティブ・ラーニングを取り入れた家庭科模擬授業 第11回　フィールドワーク（高校訪問：家庭科・熟達教師の教材と授業） 第12回　教科（家庭科）の学びを総括する 第13回　社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレー 第14回　社会人としての基本的態度と組織における協調性2：グループワーク 第15回　改善された点のチェックと資質・能力の再確認
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞記事検索・レポート作成等（2時間） 学習指導案の作成・修正等（1時間） 授業の振り返り（1時間）
授業方法	模擬授業、ディスカッション、双方向型講義、フィールドワークなどの方法で各回設定のテーマについて解説・講義を行う。
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%)⇒到達目標1･2･5に関する到達度の確認。 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)⇒到達目標3･4に関する到達度の確認。
履修上の注意	1.学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。 2.原則として全て出席すること。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
参考書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-家庭編-. 2017. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-. 2018.

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	芝　裕子・水田　時男					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24260
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	学生が教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける
授業の概要	主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う 2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める 3. 教科内容等の指導力を高める 4. 社会性や対人関係能力を伸ばす
到達目標	1.教員になるという前提での自己分析ができる 2.教員としての使命感や責任感を感じる 3.生徒指導や学級経営の知識と技能がつく 4.模擬授業を通して教科の指導力がつく 5.社会人としての基本的態度や協調性がつく
授業計画	水田　時男（10回担当）：第１～7回、13回～15回（全回、他教科と合同で実施） 芝　裕子　（ 5回担当）：第8～12回 第1回　履修カルテへの記録と気付き 第2回　教育実習を振り返って 第3回　教師の使命感と責任 第4回　教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外）と発表 第5回　生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第6回　生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第7回　学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回　教育実習を体験して分かった課題（教科・英語科に焦点化して） 第9回　アクティブ・ラーニングと英語科カリキュラム 第10回　アクティブ・ラーニングを取り入れた英語科模擬授業 第11回　フィールドワーク（高校訪問：英語科・熟達教師の教材と授業） 第12回　教科（英語科）の学びを総括する 第13回　社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレー 第14回　社会人としての基本的態度と組織における協調性2：グループワーク 第15回　改善された点のチェックと資質・能力の再確認
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞記事検索・レポート作成等（2時間） 学習指導案の作成・修正等（1時間） 授業の振り返り（1時間）
授業方法	模擬授業、ディスカッション、双方向型講義、フィールドワークなどの方法で各回設定のテーマについて解説・講義を行う。
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%)⇒到達目標1･2･5に関する到達度の確認。 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)⇒到達目標3･4に関する到達度の確認。
履修上の注意	1.学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。 2.原則として全て出席すること。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
参考書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-外国語編-. 2017. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-外国語編-. 2018.

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	田中　まき・水田　時男					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24260
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける.
授業の概要	主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う. 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う. 2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める. 3. 教科内容等の指導力を高める. 4. 社会性や対人関係能力を伸ばす.
到達目標	1.教員になるという前提での自己分析ができる 2.教員としての使命感や責任感を感じる 3.生徒指導や学級経営の知識と技能がつく 4.模擬授業を通して教科の指導力がつく 5.社会人としての基本的態度や協調性がつく
授業計画	水田　時男（10回担当）：第１～7回、13回～15回（全回、他教科と合同で実施） 田中　まき（ 5回担当）：第8～12回 第1回　履修カルテへの記録と気付き 第2回　教育実習を振り返って 第3回　教師の使命感と責任 第4回　教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外）と発表 第5回　生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第6回　生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第7回　学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回　教育実習を体験して分かった課題（教科・国語科に焦点化して） 第9回　アクティブ・ラーニングと国語科カリキュラム 第10回　アクティブ・ラーニングを取り入れた国語科模擬授業 第11回　フィールドワーク（高校訪問：国語科・熟達教師の教材と授業） 第12回　教科（国語科）の学びを総括する 第13回　社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレー 第14回　社会人としての基本的態度と組織における協調性2：グループワーク 第15回　改善された点のチェックと資質・能力の再確認
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞記事検索・レポート作成等（2時間） 学習指導案の作成・修正等（1時間） 授業の振り返り（1時間）
授業方法	模擬授業、ディスカッション、双方向型講義、フィールドワークなどの方法で各回設定のテーマについて解説・講義を行う。
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%)⇒到達目標1･2･5に関する到達度の確認。 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)⇒到達目標3･4に関する到達度の確認。
履修上の注意	1.学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。 2.原則として全て出席すること。
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。
参考書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-国語編-. 2017. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-国語編-. 2018.

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	丸山　果織・水田　時男					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24260
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	学生が教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける。
授業の概要	主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う 2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める 3. 教科内容等の指導力を高める 4. 社会性や対人関係能力を伸ばす
到達目標	・教員になるという前提での自己分析ができる ・教員としての使命感や責任感を感じる ・生徒指導や学級経営の知識と技能がつく ・模擬授業を通して教科の指導力がつく ・社会人としての基本的態度や協調性がつく
授業計画	水田　時男（10回担当）：第１～7回、13回～15回（全回、他教科と合同で実施） 丸山　果織（ 5回担当）：第8～12回 第1回　履修カルテへの記録と気付き 第2回　教師の使命感と責任 第3回　教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外）と発表 第4回　生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回　生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回　ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論 第7回　学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回　教育実習を体験して分かった課題（書道科に焦点化して） 第9回　アクティブ・ラーニングと書道科カリキュラム 第10回　アクティブ・ラーニングを取り入れた書道科模擬授業 第11回　フィールドワーク（高校訪問：書道科・熟達教師の教材と授業） 第12回　教科（書道科）の学びを総括する 第13回　社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレー 第14回　社会人としての基本的態度と組織における協調性2：グループワーク 第15回　改善された点のチェックと資質・能力の再確認
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	学習指導案の改善、新聞を用いた教材つくりなど（学習時間：180分）
授業方法	演習　プレゼンテーション　ディスカッション
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%) 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)
履修上の注意	学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
参考書	「高等学校学習指導要領解説 芸術編」（平成21年度版）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法IA						
担当教員	羽田　潤					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q2309A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	国語科教育の理論の習得と授業演習。
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、新学習指導要領を軸に、講義を行う。さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」のある国語科授業とは何かについて探究を行う。
到達目標	学習指導要領に基づいた授業設計を行い、その授業を展開することができる。
授業計画	第1回　オリエンテーション、国語の授業と私 第2回　教材と国語の授業 第3回　国語の授業はどうあるべきか 第4回　中教審答申からみえること 第5回　新学習指導要領における国語科 第6回　学習指導案を書いてみる 第7回　言語活動の充実・アクティブラーニングとは 第8回　「話すこと・聞くこと」の授業 第9回　「書くこと」の授業 第10回　「読むこと」の授業 第11回　「伝統的言語文化」の授業 第12回　模擬授業演習１ 第13回　模擬授業演習２ 第14回　模擬授業演習３ 第15回　振り返り
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・模擬授業演習の成功をひとつの到達目標とし、以下のことに取り組むこと。 １．授業前の予習：授業内容に関わる資料は事前に配布するので、90分間の予習をし、資料内容を理解しておくこと。 ２．授業後の復習：資料に基づいた議論のまとめを配布するので、その資料に基づき、90分間、内容に関する復習をしておくこと。 ３．予習・復習は、全て、模擬授業準備として積み上げていくこと。具体的には、学習指導要領の理解、国語科教科書及び教材特性の理解、国語科学習指導案の作成、板書計画、模擬授業シミュレーションを十分に行い、模擬授業の遂行に十分な準備を行うこと。 ４．模擬授業終了後は、指導案の修正に向けて成果と課題をあきらかにし、指導案の修正を具体的な根拠に基づき行うこと。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点30%：各回提出の課題などで評価する 演習内容40%：学習指導案作成、模擬授業の内容で評価する レポート30%：模擬授業の改善案レポートの内容で評価する
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は成績対象外とするが、基本的に欠席はしないように。
教科書	「文部科学省．中学校学習指導要領解説・国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領解説・国語編」（平成30年）
参考書	「文部科学省．中学校学習指導要領・国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領・国語編」（平成30年）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法IB						
担当教員	田中　まき					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q2309B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	国語科教育実践の基礎。
授業の概要	学校現場での授業観察を通して、学習者の実態、指導の方法を学び、授業設計に役立てる。 また、国語科教育法ＩＡで学んだ学習指導要領の目標や内容など学習指導理論を踏まえて、学習指導案の作成や模擬授業に取り組む。さらに、「主体的・対話的で深い学び」が実現される授業展開ができるよう、国語科におけるアクティブ・ラーニングについて考える。
到達目標	「主体的・対話的で深い学び」を実現できる国語科授業を設計し、適切な授業展開を考えることができる。
授業計画	第１回：学校現場での授業実態と授業観察の視点 第２回：国語科現代文授業観察（於：松蔭中・高） 第３回：国語科古典授業観察（於：松蔭中・高） 第４回：国語科学習に対する生徒の認識、思考及び学力等の実態 第５回：国語科におけるアクティブ・ラーニングの探究（ゲストスピーカー） 第６回：現代文教材の学習指導案作成 第７回：現代文教材の学習指導案の検討 第８回：現代文教材の模擬授業 第９回：現代文教材の模擬授業の検討 第10回：古典教材の学習指導案作成 第11回：古典教材の学習指導案の検討 第12回：古典教材の模擬授業 第13回：古典教材の模擬授業の検討 第14回：国語科教材と情報機器の活用 第15回：情報機器の活用と発展的な学習内容の探究
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：学習指導案の作成に取り組む。 国語力養成のための勉強を重ねる。（２時間） 授業後学習：模擬授業を振り返り、授業改善し、学習指導案を練り直す。（２時間）
授業方法	講義と演習（プレゼンテーションおよびディスカッション）
評価基準と評価方法	学習指導案の作成と模擬授業（70%）、レポート・ワークシート(20%)、授業に対する能動的な姿勢など（10%）などにより総合的に評価する。
履修上の注意	第２回・第３回の松蔭中高での授業観察は９月上旬～中旬の実施となることに注意。 毎回のように、小テストを実施して、到達度を確認する。 ３分の１以上欠席した場合は単位取得できない。 そもそも、教員を目指すものとして自覚を持ち、遅刻、欠席は厳に慎むこと。 病気等で欠席する場合は必ずメールで連絡すること。
教科書	「文部科学省．中学校学習指導要領解説・外国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領解説・外国語編」（平成30年）
参考書	「文部科学省．中学校学習指導要領・外国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領・外国語編」（平成30年）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法II						
担当教員	羽田　潤					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23100
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	国語科教育の理論と新たな時代の要請を踏まえた授業デザイン。
授業の概要	国学習指導案の作成及び模擬授業を軸に、「主体的・対話的で深い学び」のある国語科授業の実現を目指す。
到達目標	「主体的・対話的で深い学び」のある授業を構想し、展開することができる。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　国語科授業の課題 第3回　国語の授業における「アクティブ」とは何か 第4回　授業者にとっての「アクティブ」と生徒にとっての「アクティブ」 第5回　「アクティブ・ラーニング」を巡る議論 第6回　国語科授業の目的に関わる議論 第7回　リーディングスキルに関わる議論 第8回　大学入学共通テストに関わる議論 第9回　模擬授業及び検討会１ 第10回　模擬授業及び検討会２ 第11回　模擬授業及び検討会３ 第12回　模擬授業及び検討会４ 第13回　模擬授業及び検討会５ 第14回　模擬授業リフレクション 第15回　全体の振り返り
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・模擬授業演習における学習者理解に基づいたアクティブラーニングの成功を到達目標とし、以下のことに取り組むこと。 １．授業前の予習：授業内容に関わる資料は事前に配布するので、90分間の予習をし、資料内容を理解しておくこと。 ２．授業後の復習：資料に基づいた議論のまとめを配布するので、その資料に基づき、90分間、内容に関する復習をしておくこと。 ３．予習・復習は、全て、模擬授業準備として積み上げていくこと。具体的には、学習指導要領の理解、国語科教科書及び教材特性の理解、国語科学習指導案の作成、板書計画、模擬授業シミュレーションを十分に行い、模擬授業の遂行に十分な準備を行うこと。 ４．模擬授業終了後は、指導案の修正に向けて成果と課題をあきらかにし、指導案の修正を具体的な根拠に基づき行うこと。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点30%：各回提出の課題などで評価する 演習内容40%：学習指導案作成、模擬授業の内容で評価する レポート30%：模擬授業の改善案レポートの内容で評価する
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は成績対象外とするが、基本的に欠席はしないように。
教科書	「文部科学省．中学校学習指導要領解説・国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領解説・国語編」（平成30年）
参考書	「文部科学省．中学校学習指導要領・国語編」（平成29年） 「文部科学省．高等学校学習指導要領・国語編」（平成30年）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法III						
担当教員	田中　まき					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24110
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	国語科授業を常に改善する姿勢を持ち、さらに、発展的な内容についても探究する。
授業の概要	「国語科教育法」の授業では、国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる国語学・国文学・漢文学等の学問領域と関連させて理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に着ける。 　特に本授業「国語科教育法Ⅲ」は、授業目標に適合した評価のあり方や適切な授業展開であるかについて、自己点検や学生間の検討を通して、よりよい授業を目指して、学習指導案の修正や授業改善に努める姿勢を確立する。また、情報機器を活用した効果的な授業展開を探究する。 なお、国語科教育を担うのに充分な国語力を養成すべく、小テストを重ねる。
到達目標	(1)国語科の学習評価の考え方を理解し、適切な授業が構想できる。 (2)学習指導案や模擬授業を振り返り、授業改善ができる。 (3)情報機器を適切に使用した授業が構想できる。 (4)発展的な学習内容について探究し、学習指導に位置付ける方法を理解できる。
授業計画	第１回：評価から構想した国語科の授業設計 第２回：国語科授業における評価基準 第３回：国語科授業における情報機器使用の研究 第４回：現代文授業における情報機器使用の演習 第５回：情報機器を使用した現代文模擬授業 第６回：上記（現代文）授業の検討と改善 第７回：古典授業における情報機器使用の演習 第８回：情報機器を使用した古典模擬授業 第９回：上記（古典）授業の検討と改善 第10回：アクティブ・ラーニングの現代文模擬授業 第11回：上記（現代文）授業の検討と改善 第12回：アクティブ・ラーニングの古典模擬授業 第13回：上記（古典）授業の検討と改善 第14回：国語科における発展的な学習内容の探究 第15回：実践研究の動向と授業設計の課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：国語科教員を目指す者として、国語力養成のための学習を重ねる。（１時間） 　　学習指導案の作成・修正等（１時間） 授業後学習：授業の振り返り 　　学習指導案や模擬授業の改善（２時間）
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）70%　到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 小テスト（国語力養成のためのテスト）30%　到達目標（1）に関する到達度の確認。
履修上の注意	教員を目指すものとして自覚を持ち、遅刻、欠席は厳に慎むこと。
教科書	「中学校学習指導要領解説　国語編」（平成２９年版）文部科学省 「高等学校学習指導要領解説　国語編」（平成３０年版）文部科学省 ほかに、必要に応じて、プリント等を配付する。
参考書	「中学校学習指導要領」（平成２９年版）文部科学省 「高等学校学習指導要領」（平成３０年版）文部科学省

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法IA						
担当教員	丸山　果織					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q2312A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	高等学校芸術科書道の教員として必要な理論と実践。
授業の概要	高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法を習得する。 高等学校における芸術の授業をどのように考え、如何に実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考える。 国語科書写との関連をはかる。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察する。模擬授業をとおして実践力を高めることを目指す。 書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指す。
到達目標	文科省学習指導要領における書道教育について理解し、実技教育の方法、教科書の使い方などの工夫ができる。 また、実技能力の向上を目指す。
授業計画	第１回：評価から構想した国語科の授業設計ガイダンス（書道教員になるためにー教育理念をもつ 第２回：書写と書道について、書道教育の歴史 第３回：書道史・書論について 第４回：書道における芸術性と実用性 第５回：学習指導要領の検討―書道Ⅰ 第６回：学習指導要領の検討―書道Ⅱ 第７回：学習指導要領の検討―書道Ⅱ 第８回：臨書について（１）臨書の方法と意義 第９回：臨書について（２）古典臨書 第10回：表現について（１）ー臨書と創作指導のあり方 第11回：表現について（２）ー漢字仮名交じりの書と古典 第12回：書道科の授業展開とアクティブ・ラーニングについて 第13回：実技授業とはー高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（１）名前を書く（楷・行・草） 第14回：実技授業とはー高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（２）半紙に書く（篆書・隷書） 第15回：実技授業とはー高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（３）半切に書く
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技能力の向上は、授業外での努力を望む。 授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：２時間） 授業後学習：扱った内容に関して復習すること。　　（学習時間：２時間） 講義および実技 プレゼンテーション　ディスカッション
授業方法	講義および実技 プレゼンテーション　ディスカッション
評価基準と評価方法	平常点２０％　課題・提出物５０％　作品提出３０％
履修上の注意	毎時間、書道用具及び筆記具、ノート持参のこと。書道用具は絶対に忘れてはいけない。 書道の教師としての適性が問われる授業。授業態度、とりわけ欠席、遅刻、トイレ、携帯、教室の美化など節度ある態度を望む。 教育に関するワークショップなどの依頼があれば参加し、経験を重ねることを望む。
教科書	高等学校学習指導要領解説芸術編（平成30年） 高等学校学習指導要領（平成31年） 「書Ⅰ」（光村図書）
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法IB						
担当教員	真鍋　昌生					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q2312B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	高等学校芸術科書道の教員として必要な理論と実践。
授業の概要	高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法を習得する。 高等学校における芸術の授業をどのように考え、如何に実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考える。 国語科書写との関連をはかる。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察する。模擬授業をとおして実践力を高めることを目指す。 書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指す。
到達目標	文科省学習指導要領における書道教育について理解し、実技教育の方法、教科書の使い方などの工夫ができる。 また、実技能力の向上を目指す。
授業計画	第１回：学校現場での授業観察（事前授業） 第２回：学校現場での授業観察（１）（於：松蔭高校） 第３回：学校現場での授業観察（２）（於：松蔭高校） 第４回：書道における芸術性と実用性学校現場での授業観察（事後授業）、書道科の授業展開－篆刻について① 第５回：書道科の授業展開－篆刻について② 第６回：学習指導の要素・方法・形態・技術（１）－示範・批正の学習指導 第７回：学習指導の要素・方法・形態・技術（２）－知識・理解の学習指導 第８回：学習指導計画の立案（１）－年間・単元 第９回：学習指導計画の立案（２）－毎時 第10回：評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討 第11回：各自の学習指導案の検討（１） 第12回：各自の学習指導案の検討（２） 第13回：学生による模擬授業（１） 第14回：学生による模擬授業（２） 第15回：模擬授業の検討－授業のまとめ 評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各授業で扱う内容について、下調べをするなどの予習をすること（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、重要な箇所を確認・整理すること（学習時間：2時間） 実技能力の向上は、授業外での努力を望む。
授業方法	講義および実技
評価基準と評価方法	平常点２０％　課題・提出物５０％　作品提出３０％
履修上の注意	第２回・第３回の松蔭高校での授業観察は９月中旬の実施となることに注意。 毎時間、書道用具及び筆記具、ノート持参のこと。書道用具は絶対に忘れてはいけない。 書道の教師としての適性が問われる授業。授業態度、とりわけ欠席、遅刻、トイレ、携帯、教室の美化など節度ある態度を望む。 質問は講義の前後に教室で受け付ける。
教科書	高等学校学習指導要領解説芸術編（平成30年） 高等学校学習指導要領（平成31年） 「書Ｉ」（光村図書）
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法II						
担当教員	丸山　果織・真鍋　昌生					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q24130
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	書道科教育の理論と実践の習得
授業の概要	書道科教育の意義、目標、方法等について講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、書道の実技力を高めるため演習を積む。
到達目標	①書道科教育の意義、目標、方法等の理論を理解し、説明することができる。 ②実技力向上における指導法を習得する。
授業計画	１）書道科教育の概説　【丸山】 ２）書道科の授業分析　【丸山】 ３）実際の書道科の授業についての考察　【真鍋】 ４）授業進行過程における問題点の確認とその対策①－目標設定について　【丸山】 ５）授業進行過程における問題点の確認とその対策②－実習方法について　【丸山】 ６）授業進行過程における問題点の確認とその対策③－提出の方法について　【丸山】 ７）実技指導上の問題点の確認とその克服のための対策（個々の実技上の課題設定）　【丸山】 ８）学習指導案の作成①　【真鍋】 ９）学習指導案の作成②　【真鍋】 10）書道科授業の指導案検討①　【丸山】 11）書道科授業の指導案検討②　【丸山】 12）模擬授業①　【真鍋】 13）模擬授業②　【丸山】 14）書道科の評価　【丸山】 15）書道科教育のまとめ　【丸山】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	書道科教員を目指す者として、書道の知識と実技力の向上の修練を怠らないこと。 授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：２時間） 授業後学習：扱った内容に関して復習すること。　（学習時間：２時間）
授業方法	講義と実技演習
評価基準と評価方法	講義内容（学習指導案作成、模擬授業、レポート）40%：到達目標①の到達度確認 実技能力（提出作品）60%：到達目標②の到達度確認
履修上の注意	教員を目指す者としての自覚を持ち、基本的に全ての授業に出席すること。 教育に関するワークショップなどの依頼があれば参加し、経験を重ねることを望む。
教科書	「高等学校学習指導要領解説　芸術編」（平成31年度版） 必要に応じて資料を配布する。
参考書	「高等学校学習指導要領（平成31年度版）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒・進路指導の理論と方法／生徒指導の理論と方法／生徒指導論						
担当教員	長谷川　誠					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q22210
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生徒の人格形成と自己実現力の育成
授業の概要	今日の学校教育では教科指導と同じだけ教科外指導（生徒指導や進路指導）のもつ比重は大きい。こうした教科外指導を適切に行うためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を実証的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められるのである。本講義では、生徒指導の意義や目的を理解し、現代の学校現場における、いじめ問題、不登校問題、体罰問題等をテーマに議論を展開し、こうした事象に対する自分なりの考えや意見を持てる力を身につけるとともに、問題解決方法を探っていくこととする。また、進路指導の内容には、学校教育におけるキャリア教育の意義を整理し、若年層就労問題の実態を取り上げながら、キャリア・ガイダンスのあり方について言及したい。
到達目標	生徒指導の理論と方法のなかで目指すべき目標は、以下の4点である 1.教科指導と教科外指導との関連を理解し、生徒指導が学校の教育活動全般にわたって行われなければならない営みであることを理解する。 2.いじめや不登校などの学校病理を事例として取り上げられながら、それへの対処方法を理解する。 3.生徒たちのより適切な進路指導として、キャリア教育という視点を理解し、その際の留意点等を理解する。 4.生徒たちの発達に合わせて教育指導は行われるべきであることを理解し、学校現場におけるカウンセリングマインドの有効性について理解する。
授業計画	第１回：生徒指導の意義と概念 第２回：教育課程と生徒指導 第３回：生徒理解と生徒指導 第４回：生徒の問題行動 第５回：懲戒、体罰 第６回：不登校問題の理解と対応 第７回：不登校問題の対応 第８回：いじめの歴史的変遷 第９回：いじめの今日的特質 第１０回：学校教育における生徒指導の課題 第１１回：進路指導からキャリア教育へ 第１２回：キャリア教育の目標と意義 第１３回：職業体験とインターンシップ 第１４回：進学指導の在り方 第１５回：就職指導の在り方
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・生徒指導、進路指導に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。
授業方法	講義およびグループディスカッションを中心に行う
評価基準と評価方法	課題試験70% レポート30%
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。
教科書	文部科学省生徒指導提要（平成23年）
参考書	授業中に指示する

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	総合的な学習の時間の指導法（中・高）						
担当教員	秋山　麗子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23310
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「総合的な学習の時間」の意義について理解し、授業として実践するための基礎を身に付ける。
授業の概要	総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す教科外学習である。ここでは、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを児童生徒は行う必要がある。そこで、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につけることを目指す。
到達目標	「総合的な学習の時間」の理念や意義への理解を深めるために、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。また、総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。このとき、総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　「総合的な学習の時間」の成立、現状と課題 第３回　総合学習の源流：歴史的背景 第４回　総合学習の源流：各国における試み 第５回　現場実践の紹介：体験学習としてのものづくり 第６回　「総合的な学習の時間」で取り組むキャリア教育 第７回　「総合的な学習の時間」で取り組む生命教育と食育 第８回　「総合的な学習の時間」で取り組む環境教育と国際理解教育 第９回　生徒指導と「総合的な学習の時間」 第10回　「総合的な学習の時間」において求められる教師の力量 第11回　「総合的な学習の時間」の指導計画づくり①（中学生） 第12回　「総合的な学習の時間」の指導計画づくり②（高校生） 第13回　「総合的な学習の時間」の指導計画を発表する①（中学生） 第14回　「総合的な学習の時間」の指導計画を発表する②（高校生） 第15回　「総合的な学習の時間」における評価とまとめ：ポートフォリオ評価を中心に
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習を行うこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：総合的な学習の時間の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：2時間）
授業方法	講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、総合的な学習の時間の学習内容について、グループまたはペアで調査研究をした結果を踏まえて、解説や講義を行う。
評価基準と評価方法	授業毎の課題：30%、指導計画の提出：40%、発表：30%
履修上の注意	使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年）978-4827815795 『高等学校学習指導要領』（平成30年）　978-4827815672 文部科学省『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（平成29年）978-4827815610 文部科学省『高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編』（平成30年）978-4762505362 中園大三郎（代表）編（2020年1月）『小・中・高等学校 総合的な学習・探究の時間の指導』ー新学習指導要領に準拠した理論と実践ー　978-4865843781
参考書	文部科学省　幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省　保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府　幼保連携型認定こども園　教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省　小学校学習指導要領　（平成29年3月） 文部科学省　中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省　高等学校学習指導要領（平成30年）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動指導法						
担当教員	長谷川　誠					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23190
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	生徒にとって学校が楽しくなる工夫
授業の概要	学校教育における特別活動の位置づけや役割について、学習指導要領や具体的な取組み事例等を通して理解することを目指す。特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的を持っている。また、教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とする活動であるとされている。本講義では、このような特別活動の教育的な意義をふまえながら、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学校行事及び部活動の具体的な課題解決のための指導法について、学生参加型の講義を展開しながら検討する。
到達目標	特別活動の内容を理解し、関連する計画を立てることができる（学習指導要領の内容を理解し、具体的な計画が立てられること。）
授業計画	第１回：授業オリエンテーション 第２回：特別活動の目標と意義 第３回：特別活動の内容相互の関連 第４回：学級（HR）活動のあり方と実践 第５回：グループ別研究（学級（HR）について） 第６回：個人研究（HRの年間計画） 第７回：発表と討議 第８回：生徒会活動のあり方と実践 第９回：グループ別研究 第１０回：学校行事のあり方と実践 第１１回：グループ別研究（学校行事について） 第１２回：発表と討議 第１３回：部活動のあり方 第１４回：発表と検討 第１５回：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・特別活動に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。
授業方法	講義およびグループディスカッションを中心に行う
評価基準と評価方法	課題試験50% 研究発表30% 授業への取り組み、姿勢20%
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。
教科書	文部科学省「高等学校学習指導要領解説　特別活動編」平成30年 文部科学省「中学校学習指導要領解説　特別活動編」平成29年
参考書	授業中に指示する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別支援教育入門（中・高）						
担当教員	金丸　彰寿					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23300
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	障害，文化的差異や貧困など，多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性，発達や生活の様子等の実態及び，それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため，障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や，インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて，特別支援教育の教育課程，通級による指導や自立活動の意義，特別支援教育コーディネーターを中心とした連携，視覚障害，聴覚障害，知的障害（軽度知的障害も含む），肢体不自由，病弱，や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため，毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、特別支援教育の歴史・思想の事項、特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱う。
到達目標	(1) 特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒の理解について，①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒の心身の発達，心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児，児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 (2) 特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について，①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ，個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター，関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児，児童及び生徒の把握や支援について，①母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児，児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。
授業計画	第１回：国際的な障害概念と特別支援教育 第２回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第３回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第４回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第５回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第６回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に 第７回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第８回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第９回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第１０回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第１１回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第１２回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第１３回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第１４回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第１５回：特別支援教育における支援体制と連携 定期試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からない点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。
評価基準と評価方法	・定期試験（70%）・レポート（30%）
履修上の注意	１．教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 ２．５回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 ３．ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないので要注意 ４．レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。

教科書	『新しい特別支援教育のかたち　インクルーシブ教育の実現に向けて』 吉利 宗久, 是永 かな子, 大沼 直樹培風館 ISBN 9784563052492
参考書	・『キーワードブック特別支援教育――インクルーシブ教育時代の障害児教育』, 玉村公二彦・清水貞夫・ 黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ, ISBN978-4-86342-155-4 ・『日本型インクルーシブ教育への道―中教審報告のインパクト―』, 渡部昭男編, 三学出版, ISBN978-4-903520-70-4

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳指導法						
担当教員	松岡　靖					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	Q23180
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	道徳教育の指導案を倫理学で組み立てよう。
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に教育基本法などの方針に基づき、主体的かつ自立した人間として、他者と共生する基盤となる道徳性について、学生が理解を深めることである。第二に道徳の意義や原理を踏まえて、学校での道徳教育の目標と内容を、学生が修得することである。第三に道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行われることを理解した上で、その要となる道徳化の指導方針と指導方法を、学生が修得することである。具体的には授業序盤は講義を中心とし、中盤で倫理学の視点で指導案を検討・作成し、終盤で学生が模擬授業を実施する。
到達目標	道徳の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標・内容・指導計画等を学生が理解し、教材研究・学習指導案の作成・模擬授業の実践などを通じて、学生が実践的な指導力を身に付ける。
授業計画	第１回：オリエンテーション：私語の倫理学 第２回：体験した道徳教育：グループで発表する 第３回：指導要領にみる道徳科(1)：学校教育の役割 第４回：指導要領にみる道徳科(2)：他教科との関係 第５回：道徳科の教材研究(1)：自己との関わり 第６回：道徳科の教材研究(2)：他者との関わり 第７回：道徳科の教材研究(3)：集団・社会との関わり 第８回：道徳科の教材研究(4)：生命・自然との関わり 第９回：倫理学から道徳をみる(1)：身体の自由は本当か？ 第10回：倫理学から道徳をみる(2)：対話と異文化理解 第11回：模擬授業の実践(1)：自己との関わり 第12回：模擬授業の実践(2)：他者との関わり 第13回：模擬授業の実践(3)：集団・社会との関わり 第14回：模擬授業の実践(4)：生命・自然との関わり 第15回：まとめ：相互評価・レポート返却・成績説明など
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	１.学習指導要領や教科書の該当する部分を熟読する＜2時間＞。 ２.担当する模擬授業の指導案作成と事前に練習する＜2時間＞。
授業方法	講義と演習：プレゼンテーションとディスカッション １.前半は学習指導要領と教科書を使った講義と質疑を中心とする。 ２.後半は学生全員が模擬授業の指導案を作成してそれを実施する。
評価基準と評価方法	１．平常点30点（コメントカードや授業での発言などによる） ２．模擬授業40点（教員だけでなく学生の相互評価をも含む） ３．学期末レポート30点（模擬授業と質疑応答を題材とする）
履修上の注意	１．毎回の授業で学生全員がコメントを提出する。 ２．模擬授業の担当とレポート提出を必須とする。 ３．原則として欠席が５回を超えた場合不可とする。
教科書	特になし
参考書	『中学校学習指導要領解 特別の教科-道徳編』（平成29年） 『道徳教育はホントに道徳的か？』松下良平、日本図書センター、978-4-284-30447-4。